

1. 背景

(1) 「生物多様性いちかわ戦略」の体系の評価

- A評価の割合

A評価(「順調に進捗しており、目標を達成している」とされる指標の割合は、全体の5割程度にとどまった。

(2) コロナの影響による次期国家戦略策定の遅れ

- 現在の国家戦略

「生物多様性国家戦略2012-2020」は、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10, 2010年名古屋市)で採択された愛知目標を踏まえ決定(2012年9月)

- 次期国家戦略

次期国家戦略は、2022年度予定のCOP15で決定される「ポスト2020生物多様性枠組」を踏まえ策定される見込み

- 「生物多様性国家戦略研究会報告書」

次期国家戦略では、構造・目標・指標を大幅に見直して、目標の達成状況の明確化と多様な主体の行動を促す必要があると指摘

2. 「生物多様性いちかわ戦略」の体系の見直し方針案

(1) 現短期目標の延長

- 次期国家戦略およびいちかわ戦略の評価を踏まえ、現短期目標を5年延長し、2025年度までの短期目標とする。

(2) 重点施策の選定

- B評価(更なる努力が必要)であった施策について、重点施策を設定する。

(3) 評価指標および達成目標の見直し

- D評価(見直し対象)であった指標について、より適切な指標・達成目標へと見直す。

3. スケジュール

2026年以降を見据え、次のスケジュールでいちかわ戦略の体系を見直す。

